

## 福島大学地域スポーツ政策研究所活動報告書

所長 蓮沼 哲哉

### ○研究目的

本研究所では、「地域・クラブ・共生」型スポーツ政策への転換をコンセプトに、地域の自主的・主体的取組みを基本とし、理論と実践の両面からアプローチしていくことを目的として活動しています。

新型コロナウイルス感染症の影響により、生活や働き方などライフスタイルには変化が生まれました。また、デジタル技術などの情報化社会の進展は著しく、さまざまな視点や価値観を共有する多様性の尊重が求められています。その情勢を踏まえながら、2021年より、新たに第3期スポーツ基本計画が策定され、オリンピックレガシーの発展に向けて、① スポーツを「つくる／はぐくむ」② 「あつまり」スポーツを「ともに」行い、「つながり」を感じる③ スポーツに「誰もがアクセス」できる、という「新たな3つの視点」が重点目標に掲げられました。これらの具体的な施策を基に、本研究所では、これからも、地域の課題解決に向けて「持続可能なスポーツ社会」を実現するために、地域の資源や人材を生かし、地域住民の健康と活力ある生活を目指した取組みを実現するために研究や実践をしていきます。

### ○研究メンバー

<研究代表者（研究所長）>

蓮沼 哲哉 人間発達文化学類・准教授

<研究分担者（プロジェクト研究員）>

安田 俊広 人間発達文化学類・教授

小川 宏 人間発達文化学類・教授

<連携研究者（プロジェクト客員研究員）>

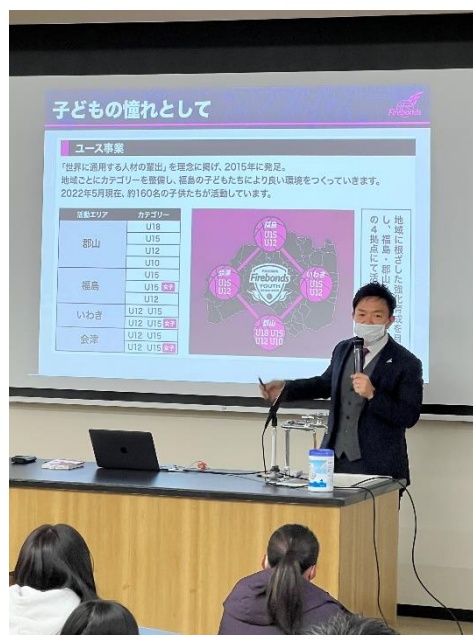
赤木 弘喜

（農スポプロジェクトリーダー）

### ○研究活動内容

【プロスポーツに学ぶ：講師；福島エンタテインメント株式会社（福島ファイヤーボンズ）代表取締役社長西田創氏】（蓮沼）

現在、スポーツ政策において、プロスポーツの動向は大きな影響を与えている。そこで、スポーツ健康科学コースの学生を対象に福島県に存在するプロスポーツで、現在、B2リーグに所属する「福島ファイヤーボンズ」を運営する福島エンタテインメント株式会社代表取締役社長西田創氏より、プロスポーツの現状と地域における存在価値について講演をいただいた。参加者は、プロスポーツが地域に貢献していく意義について理解することができた。



【SPORT FOR TOMORROW

～JICA スポーツ隊員の海外派遣活動から～

：講師；JICA 二本松青年海外協力隊訓練所 語学担当情野 弘一氏】

日本のスポーツ政策において、国際貢献活動（SPORT FOR TOMORROW）として JICA の活動は多大なる貢献を果たしている。そこ

で、スポーツ健康科学コースの学生を対象にスポーツによる海外協力、貢献について、実際に派遣されたスポーツ隊員より経験談等の講話をいただき、活動理解と自身のキャリア形成に寄与する機会をつくった。参加者は、スポーツによる国際交流、貢献について理解を深める機会となった。



**【農スポプロジェクト：新たな農業プレイヤー創出に向けて】\*連動「農スポ@南相馬」(赤木、蓮沼)**

令和元年から実施している「農スポプロジェクト」において、本学のスポーツ専攻の学生による農業支援から新たな労働力確保につなげる取り組みを行った。

南相馬市小高地区において、人手不足となっている農家さんへ、スポーツ専攻の学生を派遣し、農作業の支援を行った。学生にとっては初めてのことばかりだったが、農作物の収穫や販売を通して、農業の魅力について感じる事ができた。このような機会を今後も継続して取り組み、新たな「農業プレイヤー」を創出し、農業の担い手不足の課題解決に貢献していきたい。



**【農スポプロジェクト：福島市の魅力再発見】**

**\*連携「一社日本農スポ推進協議会」(蓮沼・赤木)**

福島市フルーツライン沿いの「まるえ観光果樹園」にて実施されたイベントの支援を行った。昨年オープンしたばかりの「道の駅ふくしま」を発着として、飯坂温泉、その周辺エリアを自転車に乗って散策し、そして、観光果樹園内でBBQを行うイベントであったが、参加者たちは、福島市の魅力を「農業×スポーツ×観光×食」の面から再発見していた。







【2022 ビーチフェスタ in 相馬】(小川、蓮沼)

東京 2020 大会まで、組織委員会の公認プロジェクトとして実施してきたビーチフェスタであったが、オリンピックが終わり、今年はオリンピックレガシーの発展に向けて取り組んだ。内容は、これまで中学生のみ参加のビーチバレーに「マスターズ」の部を加え、多世代から参加できるイベントとして実施。背景としては、2027 年に関西地域で大規模国際大会であるワールドマスターズゲームズが開催予定となっており、東北や福島からも多くの方に出場してもらうために大会の PR と生涯にわたってスポーツを続けていくきっかけとして実施した。

これまでの被災地の活性化、東京オリンピックを盛り上げることから、今後は、オリンピックレガシーや生涯スポーツとして「相馬」という地域をビーチバレーボールで活性化していく事業として継続開催していきたい。



【伊達市健康増進事業の実施とその効果検証】(安田)

伊達市より健康増進事業を受諾し、健康運動指導士による運動教室を実施した。具体的には高齢者を対象とした介護予防教室および働き盛り世代を対象とした予防重視型健康づくり事業の 2 つである。また地域住民の運動機会を増加させるために、「ノルディックウォーキング教室」「キッズダンススクール」「バドミントン教室」「ヨガクラス」「パルクール教室」といったスポーツ教室を実施した。

さらに今年度は継続的な運動教室への参加が医療費や介護認定におよぼす影響について調査するため科研費(基盤 B)を取得した(研究代表者:郡山女子大学 諏訪雅貴准教授)。本年度は取得するデータの種類やその方法・個人情報の取り扱いなどについて協議を行い、次年度以降情報提供を受ける予定である。

【総合型地域スポーツクラブ運営支援】(蓮沼)

大玉村にある総合型クラブ「おおたまクラブ」の運営支援として、クラブ内のランニングクラブの運営アドバイスおよび会員への指導を行った。会員は、キッズやジュニアを中心とし、親御さんや地域トップランナーも参加して活動をしており、近隣のマラソン大会への積極的な参加や年間延べ 2500 人の活動実績となった。住民による住民のための総合型クラブとして、モデルとなる事業となっている。



本宮市にある総合型クラブ「もとみやスポーツネットワーク」からの依頼により、子どもたちの体力向上を図る運動教室を5回実施してきた。企画運営は、学生たちが行った。内容については、総合型クラブと連携しながら、子どもたちの現状を把握し、実状にあった内容を設定した。参加者から評判もよく、常に定員が埋まる教室となった。学生たちにとっては、運動を指導する貴重な機会となっている。



**【スポーツイベント運営支援および学生ボランティア派遣】(蓮沼)**

スポーツイベント運営支援として、今年も福

島県トライアスロン協会と協働して行った。「かわうちトライアスロン大会」「アクアスロンin会津坂下大会」「アクアスロンin矢祭大会」「アクアスロン in こおりやま開成山大会」など、多くの大会へ学生を派遣し、運営支援を行った。派遣された学生たちは、コロナ禍の中で、スポーツイベントを開催する意義を理解し、ボランティアという「ささえる」スポーツに参画していくことから、スポーツを多角的に見る機会となった。



**【県内中学校地域運動部活動推進事業調査】(蓮沼)**

部活動の地域移行に伴い、県内でもモデル事業として実施されている中学校および総合型クラブにおいて、現状調査を行った。地域移行については、まだまだ課題があり、今後の研究は重要となってくる。

**【総括】**

今年度も新型コロナウイルス感染の影響はあったが、地域からのニーズをしっかりと受け止め、実践と研究を進めてきた。新たな課題も発見され、地域の課題はすぐには解決できないが、継続して取り組んでいくことから解決策を見出し、「持続可能なスポーツ社会」を目指し、地域貢献に努めていきたい。